



# Kazé



ルヴァン便り No.8  
2016.6

大正グラフィティ

## 文化学院創立者 西村伊作と二人の弟たち

Isaku Nishimura and his two younger Brothers

今年ルヴァン美術館開館20年にあたります。記念の企画展として、西村伊作の絵画・陶芸や、建築・教育など社会での活動、戦中の様子などについて紹介し、加えて二人の弟たち、真子(マーク)七分(スティーブン)についても遺された写真・絵画を展示します。伊作が最も活躍した大正デモクラシー期は、人々が家庭生活のあるべき姿を真剣に模索した時代でした。そのような時、彼は生活の器である「住宅」や、子供たちの「教育」の理想を具体的に示し、一躍「時の人」となったのです。1921(大正10)年、彼は与謝野晶子らの協力を得て『文化学院』を創立すると共に、自ら事務所を開き住宅を主とする建築活動を行いました。

彼はまた、自身の生活の中に絵画や陶芸の創作など「芸術」を取り入れ日常を豊かにするとともに、創意工夫を凝らして改善された「生活」そのものも「芸術」と考え、その創造を自らの喜びとしました。このような生活の中で、彼は何げない近隣の風景や発展し変わりゆく町の姿を描きました。今回これらの未発表の伊作の絵画も多数展示します。

この企画展で紹介した伊作の主張や姿勢が、今後の日本人の日常生活を考える上で、示唆に富んだものとなれば、幸いに存じます。



西村伊作 1933年頃



真子と七分 1903年

## 西村伊作の建築を訪ねて - 旧宣教師チャップマン邸 - 和歌山県新宮市伊佐田

この住宅が完成したのは1927(昭和2)年1月のこと。築90年近くを経過した今も西村記念館の筋向かい建ち、昨年夏新宮市が所有者から買い取り、整備の上、市の歴史的建造物として利活用することとなっている。現在全国で西村伊作の建築作品が公有化され保存活用されることが決まっているものは、上記した新宮市の西村記念館と本住宅のみ。公有化されていなくても倉敷基督教会や同市の若竹の園のように所有者によって温かく見守られているものもあるが、これらを含めてもその数はわずかであり、日本の住宅近代化に大きな役割を果たした彼の業績を考えると、その建築はもっと残ってもよいのではないかと思う。

さてこの住宅の主、E.N.チャップマンは、1888年、カリフォルニア州オークランドに生まれ、カリフォルニア大、サンフランシスコ神学校を卒業し1917(大正6)年来日、はじめ明治学院に奉職した後、1919年から米国長老派教会宣教師として新宮市を拠点に和歌山県、奈良県、三重県のそれぞれ南部で伝道活動を行った。新宮では子供たちを地元の小学校に入学させ、地域の人々とも親しく交流するとともに、西村の家族とも家族ぐるみで交際した。住宅はボツリ山と呼ばれる小山を背に南向きに建ち、玄関ホールを動線の要におき、そこから各部屋につながっている。装飾は西村の主張通り最小限にとどめている。屋根は西村が好んで使用した天然スレートが葺である。

写真Ⅰは、本邸の竣工時と思われる外観写真で、現在左手には西村の右腕として活躍した大島虎之助による洋館岡邸が建っている。現在本邸は前面左手に一室が増築され、往時の姿を見ることはできないが、来年度の整備工事で美しく蘇るものと期待している。写真Ⅱは1937(昭和12)年ごろのクリスマスの時のチャップマンの家族写真である。



写真Ⅰ 竣工のころのチャップマン邸



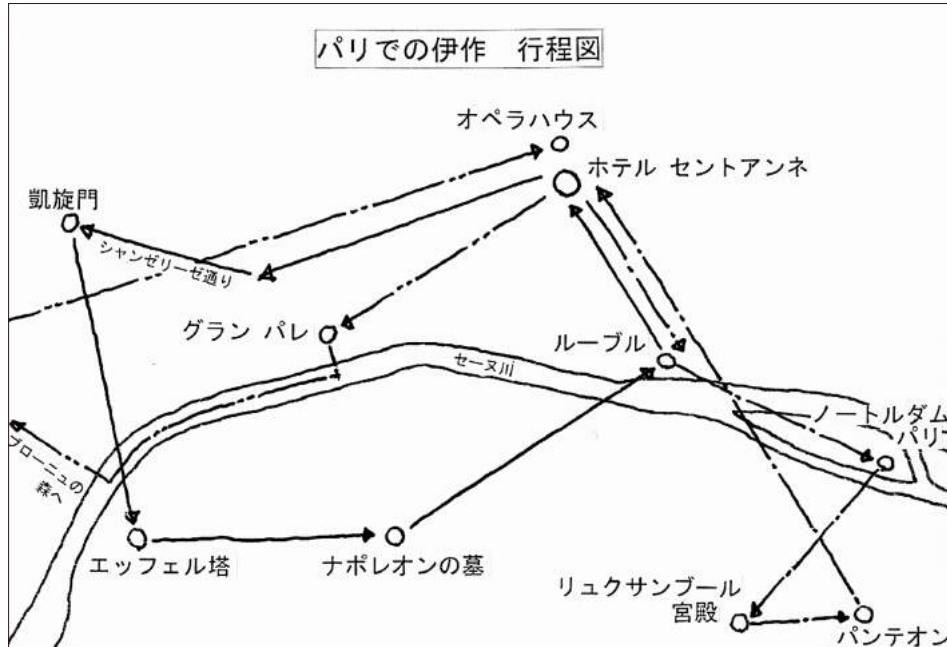
写真Ⅱ 1937(昭和12)年クリスマスのチャップマン一家

(建築史家 西山修司)

# 伊作の欧米旅行日記(7)

1909(明治42)年5月11日~17日 パリにて

西村伊作は前々日スイスのレマン湖畔モンレーで一泊し、前日はジュネーブで泊。翌日パリに向かった。パリではこの旅行記には記していないが自伝『我に益あり』には「二つほどのホテルで断られ、結局グランドオペラの近くの小さなホテルに泊まった」と記している。文中< >は筆者によるもの。○○○は判読不能箇所。



5/13の行程は 実線、5/14は一点鎖線、5/15は二点鎖線で示している。5/12はオペラハウスのみ。



伊作のスケッチ「パリオペラ街」  
雑誌「サンセット」掲載 明治43年5月号



1912(明治45)年ごろのオペラハウス

## ●1909(明治42)年5月11日

午後一時半の汽車にてパリに向かふ。ローン川を沿ふて下る。税関で荷物を調べる。岩の多き山の間を通る。同車の人が城と間違へた岩は、山の頂上に○○○の如く群れ立つて居る。仏領に入つてから平地になり百姓家見へる。百姓の女も畑にいる。平地に森がある。ポプラの並木がある。道端の両方に木を植へたのが長くつづいて居るのも見へる。(菜)の花が○に咲いて居る畑がある。赤瓦の屋敷、土と石の家、アーチの橋、寺の突頂、牛、羊、ぶた、十二時頃であらう。パリへ着いた。汽車の中へ傘をわすれ手荷物を受け取る時思出し、まごまごして居たら保管所へちゃんと置いてくれてあつた。ホテル セント アンネへ泊る。

## ●5月12日

朝風呂に入つて冷えたのと、夕べ汽車の中で食べたものがあつたとの二つで熱が出、腹が下り頭痛がし、大によはつて一日べつどの中に居る。それでも朝の内ちよつとオペラハウスのとこまで行つた。パリの市の真中故車馬の音、自動車の音ががたがたと絶間ない。町は自動車のガスで青くかすんで居る。

## ●5月13日

昨日一日心棒してねて居たため、気分がよくなり朝からシャンゼリゼーの通りを通つて凱旋門に行き(シャンゼリゼーは聞いた程きれいでない)それからエフェルの高塔に上がり数層の家がマッチ箱の如く人は粟粒の如きを見、それからナポレオンの墓を見、同所の武器の陳列を一寸見、てくてくあるいてルーブルの所へ来、大きな商店へ入つてつい何かを買つて銭を費い宿に帰へる。夜はぶらぶら遠いのに歩いて賑やかな所に〇等の無数に闊歩するを見た。

## ●5月14日

ルーブルへ入つて画を見た。有名な日本の雑誌でお目にかかつた画がたくさんある。ラファエル、とかミレー、コロ、何の事はない〇〇〇〇ごちやごちやとかけつらねてある。それを写して居るやつが多いが皆まづい。本物にくらべると見られぬ。日本人(前〇とか)にあつてその人に三階の室を案内してもらつた。そこには小さい画の面白いのが多くあつた。近くの料理やでひるめしをたべて、てくてくとノートルダムへ歩いて行つて、一寸中をのぞいてルクセンブルグ《Luxembourg リュクサンブール》へてくついてその庭で陸軍の楽隊をきき、それからパンセオンを一寸のぞいて馬車に乗りホテルへ帰つた。

## ●5月15日

サロンを見た。彫刻画板及応用美術を一度に目を通すのが中々骨が折れる。グランドパレイと云ふ大きな建築物の中で立派なものだ。中に料理屋があるそこで物を食べるとひどく高い。室の数が多くてまよふ。硝子天井の下へ〇いまくをはつてある。館内に木を植へその中へ彫像をあしらつてある。同じ建物の中にも一つ展覧会がある。そこも殆どサロンと同じ様に出来て居る。

サロンを出て川船にて川を上るか下るか知らぬが通つて、それから馬車でパリ郊外の公園ボイドボロン《Bois de Boulogne ブローニュの森》を走りまはつた。木が多く深山の趣ある所もあり実に綺麗である。そして甚廣い道が〇しに付いて居つて一人ではまよつて出る事が出来ないだろう。馬車自動車にのつた途中が随分しやれて〇て居る。森の中でスケッチして居るもあり、若い男女二人が手を引いて歩いて居るあり、家族一団ピクニックをやつて居るもあり、学校の生徒は何かして遊んで居る。池あつてボートを漕いで居る。木は実によく茂つて居る。ほこりだらけのパリにも此公園あるにより大によいだろう。遠く空中飛行船が飛んで居るのを見た。どこへ行つても言葉が分からず、そして仏人は旅人に対して金を取る事にぬけめがない故あまり面白くない。

夜オペラを見た。三階の室の一席を買つた。五フランであつた。ごくやすい所である。然し席は立派でビロード張りの椅子にこしかけるのだ。でもこしかけるとよく見へぬ故多く立つて見る。オペラの家は立派なものの中の彫刻は皆金を着せてある。大した金だろう。美しく着かざつた男女が一ぱいつめこんである六階位になつて居る場所が一ぱいだ。舞台は電気で色々の仕掛けがしてある。役者が一度に数十人舞台に出てきて踊る。オーケストラの人数も五六十人以上あるだろう。立役者はよく働く。一寸も面白くなかつた。

## ●5月16日

ルクセンブルグの画〇を見る。現代の美術家の傑作を集めた所だ。サロンの画の少しふるくなつたやつである。〇しここにあるものの方がサルンよりはるかによい日露戦争を画題にしたものがあり京都の祇園の〇〇をかいたのがあつた。面白い画で一ぱん日本をよく表して居た。(James Pissot)そこを出てから町をぶら付いて宿にかへり室内でぐずぐずして居た。

## ●5月17日

朝銀行へ行つて金をとつて、それからホテルの拂いなし、汽車にのつてロンドンへ向ふ。(ひる十二時)……

## 2016年度 ルヴァン美術館のご案内

6月11日(土)～11月6日(日) 2016年

10:00～17:00

水曜日休館(7月15日～9月15日は無休)

### 春のアートフェスティバル

子どもたちの作品展示 10:00～17:00 入場無料

4月29日(金)～5月5日(木)

### 新夏休み体験教室

木工教室 10:00～16:00

7月23日(土)・24日(日)

講師:永島秀之 材料費込:1,000円(制作時間 約40分)

### ローズフェスティバル - バラとお茶の会 -

10:00～17:00 会費:2,000円(各種特典あり) 6月18日(土)～7月3日(日)

美術館入館券2枚、カフェでのお茶とケーキセット券2枚付き

\*フラワーアレンジメント 体験教室(1,000円 お茶付き) 7月2日(土)

10:00～16:00 捧泉美先生

### ルヴァン サマーコンサート

① 近藤和花 ピアノコンサート 8月 7日(日)

② ボサノバ/サバトス(木村純・三四郎) 8月13日(土)

③ 一噌幸弘(能管・笛)/高木潤一(ギター)/

勝海登(能楽観世流シテ)/吉見征樹(タブラ)

④ アルティノ(酒井はな・島地保武)/山田路子(笛) 9月18日(日)

①③④ 開場 16:30 開演 17:00 ビュッフェなし、開演までカフェ利用可。

②のみ 開場 18:00 開演 18:30 ビュッフェ(予約制 先着30名) 17:00～ 1,800円

入場料:3,000円(中学生以下1,500円) ワンドリンク付き

③④は軽井沢ペット福祉協会チャリティコンサート

※コンサート開催日のみ、美術館は16:00に閉館致します。

### 秋のアートフェスティバル

10:00～17:00 美術館入場無料

10月9日(日)

\*ルヴァン美術館の庭でのスケッチ大会

\*トールペイント体験教室 中嶋祐子 L' Atelier Fleur (1,000円)

\*美術館展示説明会 西山修司(建築史家)

7月23日(土)、10月9日(日)

14:00～(要入館料)

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Ventは、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館：〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢957-10 Tel.: 0267-46-1911 Fax.: 0267-46-1910  
東京事務所：〒107-0052 港区赤坂9-6-14 Tel. & Fax.: 03-3401-8896 <http://www.levent.or.jp>